

コンクリートの配合表

	粗骨材 の最大 寸法 (mm)	スラン プの範 囲 (cm)	空気量 の範 囲 (%)	水セメ ント比 W/C (%)	細骨 材率 S/A (%)	設計基準 強度 (N/mm ²)	単 位 量 (Kg/m ³)					
							セメント	水	細骨材	粗骨材	混和剤	AE剤
							C	W	S	G	マスター グレニウム 8000P	マスターエア 202
No 1	20	12.0 ±2.5	4.5 ±1.5	45.0	42.0	30.0	380	171	745	1032	1.71	0.95
No 2	20	0	—	27.0	52.0	30.0	450	122	1022	947	—	—
No 3	20	12.0 ±2.5	4.5 ±1.5	41.5	42.0	40.0	420	174	727	1007	1.89	—
No1マンホール、床版塊、DUグレート、国土交通省角楯、集水楯、基礎ブロック、L型擁壁、カゴボックス、 ボールコン、エコブロック、基礎付歩車道ブロック、アダムウォール、パーキングブロック、汚水楯、座台、 埋設標、大型水路、SGベース、その他製品											塩化物イオン (cl ⁻) 量 0.30kg/m ³ 以下	
No2遠心転圧楯 No3防火水槽等、斜角門形カルバート											アルカリ総量 3.0Kg/m ³ 以下	

使用材料の特性

セ メ ン ト	セメントは、JIS R 5210 (ポルトランドセメント) に規定する普通ポルトランドセメントの規格に適合したものを使用する。										メーカー：太平洋セメント株式会社				
	密度 (g/cm ³)	比表面積 (cm ² /g)	凝 結		安定性 (パル法)	圧縮強さ (N/mm ²)			酸化マグ ネシウム %	三酸化 硫黄 %	強熱 減量 %	全アル カリ %	塩化物 イオン %		
			始 発 h-min	終 結 h-min		3 日	7 日	28日							
	3.16 ±0.02	2500 以上	60min 以上	10h 以下	良	125 以上	225 以上	425 以上	5.0 以下	3.5 以下	5.0 以下	0.75 以下	0.035 以下		
骨 材	骨材は、JIS A 5308 の付属書7によってアルカリシリカ反応性試験を行い「無害」と判定されたものを使用する。														
	細 骨 材	種 類： 砕 砂 岩 質： 石 灰 岩 産 地： 紫 波 町 赤 沢 字 女 牛 地 内													
		粒 度 分 布 (ふるいを通すもの質量百分率%)							絶 乾 密 度 (g/cm ³)	吸 水 率 %	単位容積 質量 (Kg/l)	微粒分量試験 で失われる量 %	粒形判定 実績率 %	安 定 性 %	
		10 mm	5 mm	25 mm	12 mm	0.6 mm	0.3 mm	0.15 mm							
		100 mm	90~ 100	80~ 100	50~ 90	25~ 65	10~ 35	2~ 15	2.5 以上	3.0 以下	1.50 以上	9.0 以下	54 以上	10 以下	
	粗 骨 材	種 類： 砕 石 岩 質： 石 灰 岩 産 地： 紫 波 町 赤 沢 字 女 牛 地 内													
種類		粒 度 分 布 (ふるいを通すもの質量百分率%)						絶 乾 密 度 (g/cm ³)	吸 水 率 %	単位容積 質量 (Kg/l)	微粒分量試験 で失われる量 %	粒形判定 定実績率 %	安 定 性 %	すりへ り減量 %	
		25 mm	20 mm	15 mm	10 mm	5 mm	2.5 mm								
200 mm		100 mm	90~ 100	—	20~ 55	0~ 10	0~ 5	2.5 以上	3.0 以下	1.55 以上	3.0 以下	56 以上	12 以下	40 以下	
鉄 線	鉄線は、JIS G 3532 (鉄線) に規定する溶接金網用鉄線 (SWM-P) を使用する。														
	溶接金網 用鉄線 (JIS G 3532)	線径 (mm)		2.60	2.90	3.20	3.50	4.00	4.50	5.00	5.50	6.00			
		許公差 (mm)		±0.06			±0.08			±0.10					
		引張強さ (N/mm ²)		540 以上											
鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 用 棒 鋼	(JIS G 3112)	絞 り %		30 % 以上											
		鉄筋コンクリート用棒鋼は、JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) に規定するSD295A又はSD345で、 呼び名 D6, D10, D13, D16, D19を使用する。													
		呼 び 径 (mm)		許 容 差 (mm)		降 伏 点 (N/mm ²)		引 張 強 さ (N/mm ²)		伸 び (%)		曲 げ 試 験			
		D 6		—		295 以上		440~600		16 以上		良			
		D 10													
		D 13													
D 16															
D 19		345~440		490 以上		18 以上									

この報告書は、原本と相違ないことを証明します。

2014年10月9日



岩手県生コンクリート工業組合
岩手県紫波郡紫波町赤沢字女牛42の3
発行日 2014年10月9日

総数 1 頁 の 1 頁

骨材のアルカリシリカ反応性試験（化学法）報告書

岩手県生コンクリート工業組合
中 央 技 術 セ ン タ ー
〒020-0816 盛岡市中町一丁目1番地
TEL 019-622-4820・FAX 019-622-4821
承認署名者・所長

顧 客 名 称	紫波砕石有限公司
顧 客 住 所	〒028-3533 岩手県紫波郡紫波町赤沢字女牛42の3
試 験 方 法	JIS A 1145:2007
試 験 条 件	指定事項無し
受 領 年 月 日	2014年10月1日
識 別 番 号	14.10.01-B-77
受入れ時の状態	荷袋に損傷無し
試験採取年月日	2014年10月1日
種 類 名	砕石2005
産 地 名	白竜鉱山(紫波町赤沢地内)
岩 種 名	石灰石
備 考	

上記試験品目の試験結果は、下記のとおりであることを証明いたします。

試 験 年 月 日	2014年10月9日
溶解シリカ量(S _c)の定量方法	原子吸光度法
測 定 番 号	1 2 3
溶解シリカ量(S _c) mmol/L	1 1 1
アルカリ濃度減少量(R _c) mmol/L	15 15 15
判 定 結 果	無 害
判 定 基 準	・判定は、測定項目における定量値の平均値を用いて行われ、次による。 a) 溶解シリカ量(S _c)が10mmol/L以上で、アルカリ濃度減少量(R _c)が700mmol/L未満の場合、その骨材を「無害」と判定し、溶解シリカ量(S _c)がアルカリ濃度減少量(R _c)以上となる場合、その骨材を「無害でない」と判定する。 b) 溶解シリカ量(S _c)が10mmol/L未満でアルカリ濃度減少量(R _c)が700mmol/L未満の場合、その骨材を「無害」と判定する。 c) アルカリ濃度減少量(R _c)が700mmol/L以上の場合には判定しない。
備 考	1. 本試験は、貴社の持ち込み試料により実施したものです。 2. 本試験は、全国生コンクリート工業組合連合会が、経済産業省の指導に基づき、当センターの「運営」「設備」「技術力」などを審査した結果、適正であると認められた「認定試験項目」です。

注1) 本書の試験結果は、本書に記載した試料についてのみ有効です。
注2) 試験品目の「試験採取年月日」、「種類名」、「産地名」、「岩種名」は、顧客からの申告によるものです。
注3) 当技術センターの文書による承認なしでは、完全な複製を禁止し、本報告書の一部だけを複製することを禁じます。

証 明 書

平成26年11月 1日

大丸コンクリート株式会社 御中

岩手県紫波郡紫波町赤沢字女牛42の3
紫波砕石有限公司
代表取締役 佐々木 孫一
TEL 019 (672) 3101
FAX 019 (672) 3106

岩手大丸コンクリート株式会社 様へ納入する砕砂について
採取地は下記の通りである。

記

鉱 山 名	白竜鉱山
産 地	紫波町赤沢地内
種 類	砕砂、砕石
鉱 区	岩手県採掘権登録第1384号鉱区 (船久保鉱床)
岩 質	石灰石

以上により

・ J I S A 5 0 0 5 コンクリート用砕石及び砕砂

4. 6アルカリシリカ反応性の試験結果は、原石の採取地が同じ場合に限り、砕石の試験結果を砕砂に用いることが出来る。

を適用できることを証明いたします。

コンクリート中のアルカリ総量の計算

(J I S A 5308 付属書 6 による)

コンクリート中のアルカリ総量は次式によって計算し 3.0 kg / m³ 以下とする。

R t = R c + R a + R s + R m + R p

ここに、R t : アルカリ総量 (kg / m³)

R c : セメント中の全アルカリ量 (%)

単位セメント量 × セメント中の全アルカリ量 / 100

R a : コンクリート中の混和材に含まれる全アルカリ量 (kg / m³)

単位混和材量 × 混和材中の全アルカリ量

R s : コンクリート中の骨材に含まれる全アルカリ量 (kg / m³)

単位骨材量 × 0.53 × 骨材中の NaCl の量

R m : コンクリート中の混和剤に含まれる全アルカリ総量 (kg / m³)

単位混和剤量 × 混和剤中の全アルカリ量

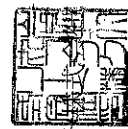
R p : コンクリート中の流動化剤に含まれる全アルカリ総量 (kg / m³)

単位流動化剤量 × 流動化剤中の全アルカリ量

R t = (380 × 0.67 / 100) + 0 + 0 + (1.71 / 2.63 × 0.08) + 0 = 2.566 (kg / m³)

判定 : アルカリ総量が 3.0 kg / m³ 以下であるので合格

平成 27 年 1 月



大丸コンクリート

塩化物含有量測定記録

平成 27 年 1 月

1	2	3	
塩分測定記録 No. / 測定日 15/01/09 コンクリート C14材 材料 総量換算 0.023 Kg/m³ 細骨材換算 0.003% 水溶液換算 0.014% 濾液温度 17.3°C 水量 171Kg/m³ 細骨材量 745Kg/m³	塩分測定記録 No. 2 測定日 15/01/09 コンクリート C14材 材料 総量換算 0.012 Kg/m³ 細骨材換算 0.002% 水溶液換算 0.007% 濾液温度 17.6°C 水量 171Kg/m³ 細骨材量 745Kg/m³	塩分測定記録 No. 3 測定日 15/01/09 コンクリート C14材 材料 総量換算 0.023 Kg/m³ 細骨材換算 0.003% 水溶液換算 0.014% 濾液温度 17.3°C 水量 171Kg/m³ 細骨材量 745Kg/m³ 測定者  ソルター-C-6型	
月 日	測定時間	塩化物含有量平均値	合 否
1 月 9 日	AM10 : 00	0.019 k g / m ³	合 格

測定はソルター-C-6 型を使用。

判定 塩化物含有量が 0.30 k g / m³ 以下であるので合格。

大丸コンクリート

